



LE MEURICE

ル・ムーリス www.jhrca.com/worldhotel?cat42

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリアが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。

これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。

独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸甚に存じます。



筆者 小原 康裕

ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健備代表取締役。

2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。

JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。

www.jhrca.com/worldhotel

現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。

多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。



アラン・デュカス監修の「Le Meurice Alain Ducasse」。この絢爛豪華なダイニングは、ヴェルサイユ宮殿の“平和の間”を再現したものである



“パリで最も歴史の古いホテル”として、多くの王室や世界の賓客を迎えて来た屈指の格式を誇るホテルである。それ故に戦争で勝利し進駐した軍隊は、占領地で最も良いホテルを最高司令部として徴用する。皮肉な話だが、それが結果的にホテルのステータスを証明してしまうことが多々ある。ナチス・ドイツの占領から解放への劇的なシーン、『パリは燃えているか?』の舞台となったムーリスは、まさにパリを代表する風格を備えている。

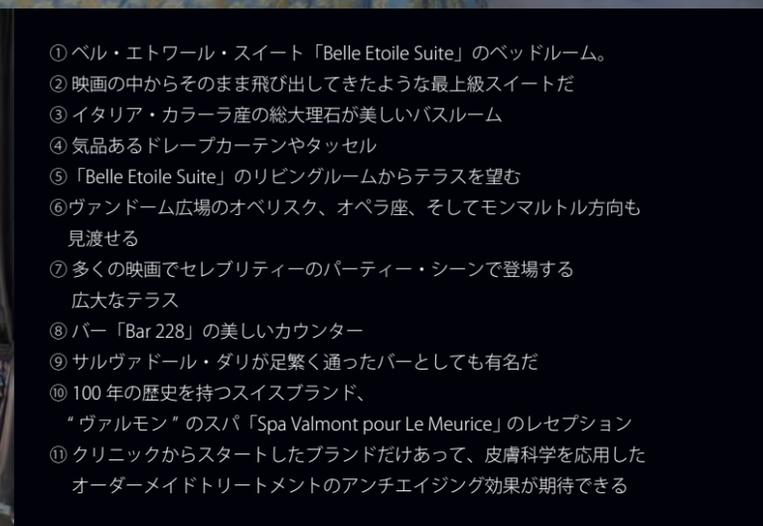
ホテルの歴史は1771年、カレーにて始まった。当時、カレーはドーバー海峡を渡ってパリへと向かうイギリス上流階級の旅行者が経由する要衝の地であった。そこで野心家の郵便局長、シャルル・A・ムーリスが彼らを迎え入れる旅籠“Coaching Inn”を開業し、ここに宿泊させた上で、パリへ郵便馬車での送迎手配を行っていた。やがて事業は拡大し、パリに念願のホテル「Hôtel Meurice Paris」を1815年に創業。その後1835年に、パリで最もエレガントな場所の一つであるチュイルリー公園に面した現在の地へと移転し、今日の隆盛たる基礎が完成した。

ムーリスはスイートを含め全160室の客室を擁し、チュイルリー公園を見下ろす視野の広い眺望は、パリ中心部では貴重な存在である。今回はその眺望が魅力のベル・エトワール・スイート「Belle Etoile Suite」をご紹介したい。映画の中からそのまま飛び出てきたような最上級スイートで、実際に多くの映画のロケーションセットとしても使用され、部屋から眺めるだけでも感動ものといえる。メインダイニングは、以前、伝説的シェフのヤニック・アレノが腕を振った「Le Meurice」の名前であったが、現在はアラン・デュカス監修の「Le Meurice Alain Ducasse」と名称変更している。この絢爛豪華なダイニングは、ヴェルサイユ宮殿の“平和の間”を再現したものというのもうなずける。また、「The Chef's Table」はアラン・デュカスのプライベートダイニングルームで、ヘッドシェフのJocelyn Herland氏が自ら調理し、彼の独創的な料理を8名までの少人数テーブルで頂く特別空間である。

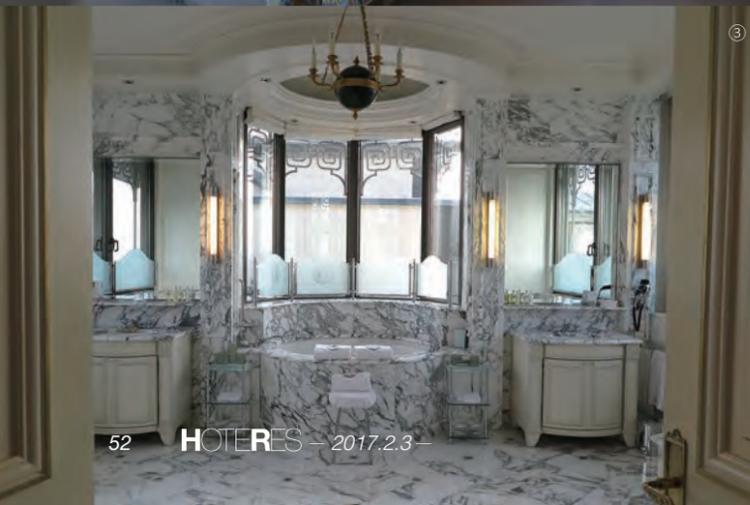
ムーリスの常連だったサルヴァドール・ダリから名を取った、もう一方のダイニング「Le Dali」も見逃せない。天井に描かれた荘厳な装飾画は圧巻で、ムーリスのデザインに深く携わった建築家、フィリップ・スタルクの娘でアーティストのアラ女史によるものだ。ムーリスには歴史に裏付けされた見所は多いが、その一つがサロン「ボンパドゥールの間」であろう。国王ルイ15世の公式の愛妾、ボンパドゥール侯爵夫人の肖像画が燦然と輝くサロンである。美しいチュイルリー公園に臨むムーリスの佇まいは、当然のごとく「PALACE」の称号を最初に認定されたホテルとしての矜持を携え威風堂々としている。



- ① 中2階回廊から俯瞰するエントランスロビー
- ② サルヴァドール・ダリから名を取ったダイニング「Le Dali」。天井に描かれた荘厳な装飾画は圧巻で、ムーリスのデザインに深く携わった建築家フィリップ・スタルクの娘でアーティストのアラ女史によるものだ
- ③ 「Le Meurice」の正面エントランス。
- ④ 重厚、且つ威厳が感じられるレセプションデスク
- ⑤ スタッフに迎えられる筆者



- ① ベル・エトワール・スイート「Belle Etoile Suite」のベッドルーム。
- ② 映画の中からそのまま飛び出してきたような最上級スイートだ
- ③ イタリア・カララ産の総大理石が美しいバスルーム
- ④ 気品あるドレープカーテンやタッセル
- ⑤ 「Belle Etoile Suite」のリビングルームからテラスを望む
- ⑥ ヴァンドーム広場のオペリスク、オペラ座、そしてモンマルトル方向も見渡せる
- ⑦ 多くの映画でセレブリティのパーティー・シーンで登場する広大なテラス
- ⑧ バー「Bar 228」の美しいカウンター
- ⑨ サルヴァドール・ダリが足繁く通ったバーとしても有名だ
- ⑩ 100年の歴史を持つスイスブランド、「ヴァルモン」のスパ「Spa Valmont pour Le Meurice」のレセプション
- ⑪ クリニックからスタートしたブランドだけあって、皮膚科学を応用したオーダーメイドトリートメントのアンチエイジング効果が期待できる





①



④



②



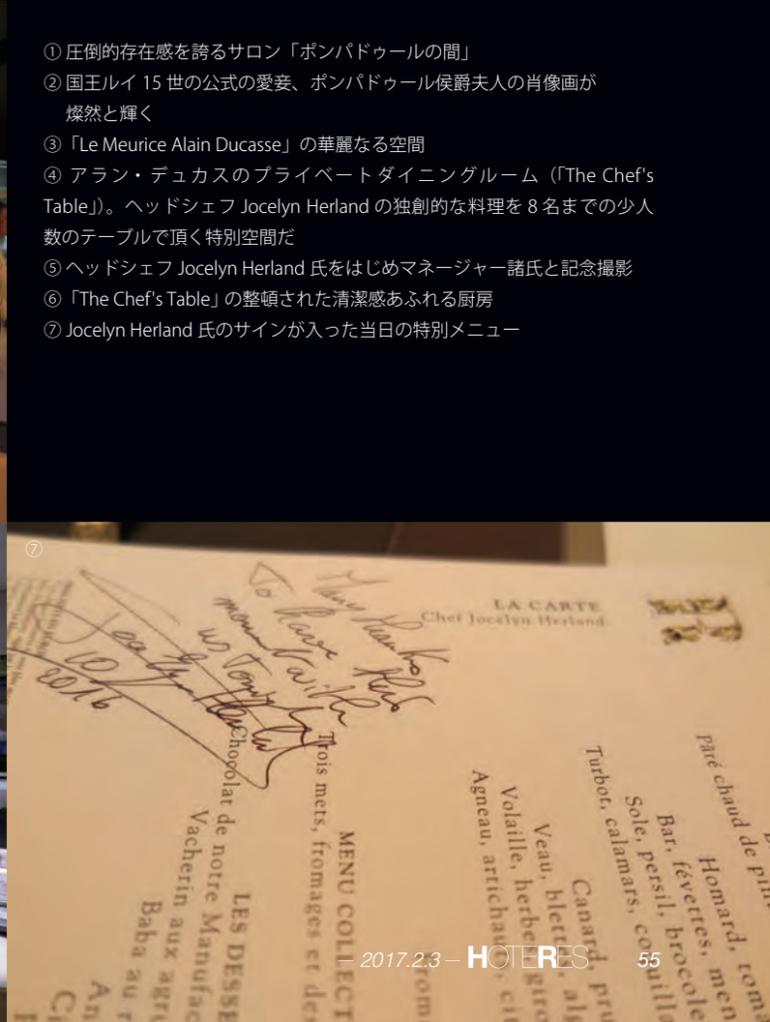
③



⑤



⑥



⑦

- ① 圧倒的存在感を誇るサロン「ボンパドゥールの間」
- ② 国王ルイ 15 世の公式の愛妾、ボンパドゥール侯爵夫人の肖像画が燦然と輝く
- ③ 「Le Meurice Alain Ducasse」の華麗なる空間
- ④ アラン・デュカスのプライベートダイニングルーム（「The Chef's Table」）。ヘッドシェフ Jocelyn Herland の独創的な料理を 8 名までの少人数のテーブルで頂く特別空間だ
- ⑤ ヘッドシェフ Jocelyn Herland 氏をはじめマネージャー諸氏と記念撮影
- ⑥ 「The Chef's Table」の整頓された清潔感あふれる厨房
- ⑦ Jocelyn Herland 氏のサインが入った当日の特別メニュー